

2023年4月4日

建設現場にてバイオディーゼル燃料(B100燃料)を発電機に使用開始

東急建設株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：寺田光宏、以下当社）は脱炭素社会の実現を目指し、植物由来油から製造されるディーゼルエンジン用のバイオディーゼル燃料(以下 B100 燃料)を東京都内の土木施工現場の発電機に使用開始しました。

B100 燃料※₁は日本建設業連合会が施工段階における CO₂ 削減方策として、軽油代替燃料の利用拡大に向けて発行した「建設業における軽油代替燃料利用ガイドライン」に記載されている環境配慮型の燃料で、廃食用油を原料として製造されており、カーボンニュートラル※₂で CO₂ 排出量が約 100%削減できます。今回当社が使用する B100 燃料は三和エネルギー株式会社から調達するものになります。

B100 燃料は従来、建設機械(建設重機、発電機)での利用は想定されておらず、メーカーの保証範囲外となっているため、これまで利用検証は行われてきましたが、まだまだ浸透していないのが現状です。

このような状況の中、今回株式会社アクティオが、品質が担保された B100 燃料を使用し、発電機にて燃料燃焼実験を 2 年間実施した結果、2022 年 8 月、発電機本体に問題が発生しなかったことが確認されました。この実験結果を踏まえ同社が 2022 年 8 月に提供開始したバイオディーゼル専用発電機を使用することで、当社は、建設現場への B100 燃料の導入を順次拡大していくことにいたしました。



【発電容量 80KVA での B100 燃料使用開始】

■B100 燃料の導入を開始した作業所からのコメント

「今回の B100 燃料の導入により、当社の長期経営計画で示している提供価値の一つ『脱炭素』を促進し、地球温暖化防止に向けた建設業界の取組みに少しでも貢献できれば幸いです。」

中林拓真（B100 燃料導入現場 作業所長）

「B100 燃料を社内で一早く導入することで、当社の 3 つの提供価値の一つである脱炭素に大きく貢献したい」

田中康貴（同現場 主任）

当社では、長期経営計画「To zero, from zero.」で3つの提供価値の一つとして掲げている「脱炭素」実現のため、これまでも、環境負荷の少ない軽油代替燃料「GTL (Gas to Liquids の略称) 燃料」※3や、CO2排出量の100%削減が見込める「リニューアブルディーゼル」※4を日本全国の建設現場に導入してまいりました。

これらの燃料は建設重機に使用しておりますが、今回新たにB100燃料を発電機に使用することで、建設重機稼働時だけでなく、事務所の電気や溶接工事などにおいてもCO2排出量の削減が見込めます。これにより、建設現場でのCO2排出量削減の幅を広げ、一層の脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

※1 全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会「協議会強制規格（7項目）」を満たす燃料

※2 カーボンニュートラルとは、CO2をはじめとする温室効果ガスの排出量と植林などによる吸収量が等しく均衡している状態を意味し、例えば、生物が成長過程で光合成により大気中から吸収したCO2であり、燃焼しても大気中のCO2は増加しないという概念。

※3 環境負荷の少ない軽油代替燃料「GTL 燃料」を国内建設現場で採用（2021年9月10日リリース）

https://www.tokyu-cnst.co.jp/topics/assets/20210910_NewsRelease_2.pdf

※4 建設業界初、CO2大幅削減できるリニューアブルディーゼルを国内現場の重機（クレーン）に使用開始（2022年4月20日リリース）

https://www.tokyu-cnst.co.jp/topics/assets/NewsRelease_20220420.pdf

【本件に関する問合せ先】

経営戦略本部 経営企画部 コーポレート・コミュニケーショングループ 西田
TEL 03-5466-5008 FAX 03-5466-5069 E-mail: webmaster@tokyu-cnst.co.jp

以 上